

平成 26 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(向原地区)

開催日時	平成 26 年 11 月 12 日 (水) 午後 7 時から午後 9 時	天気 曇り
場所	向原児童館	
町民参加者	男 21 人 女 1 人 (40 代以下 0 人、50 代 2 人、60 代以上 20 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画財政課長、新東名対策室長、定住対策室長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：広域避難所としての考え方》

- 今回の台風 18、19 号で避難場所として、向原児童館と下本村コミュニティセンターを自主防災組織で開設した。住民の方がいざ災害にあったときに、避難場所が複数あると迷ってしまい、どこに行けばいいのかわからなくなってしまう。広域避難場所である山北中学校だけを避難場所と決めて、最初からそこに行くようにしておけば、本番でも住民は迷わないのではないか。
- 向原児童館が一時的な避難場所となっているが公衆電話が無い。公衆電話があれば非常に便利ではないか。山北町全体で考えても、公衆電話が見当たらない。
- 尺里中自治会は 91 世帯あり、尺里の集会所等に段階的に向かうための、自主防災組織を作っている。集会所等に向かう前に点呼・安否確認をするためにまず集まるという訓練を行っている。集まった後は、自治会長が次の段階に移動するか判断をする。
- 住民一人一人が自助共助公助の気構えを持っていないことには、自主防災組織を作っても動かないので、地道な活動から行わないと難しいと思う。
- 町と自主防災会の通信について、大災害時はおそらくパニックになると思う。町の全ての課の回線をオンラインにして、連絡すれば空いている電話で受けられるようにしておいてもらわないと困る。
- 町は台風 18、19 号のときは向原児童館を避難所としたが、自治会では繰り返し山北中学校が避難所として説明している。今になって、台風等の規模の違いで避難所を変えられると混乱する。
- 避難指示が出た場合、向原児童館から山北中学校まで連れて行く必要がある。おそらくお年寄りや体の不自由な方がまず向原児童館へ避難してくると想定されるが、その場合に誰が山北中

学校まで支援を必要とする方々を連れて行くのか。

○尺里中自治会では自主防災として防災会という組織を作っている。防災会は、自治会長、副自治会長、組長の全員で組織しているが、自主防災は自治会とは独立した組織にするべきだと考えている。

○組織体制を構築させるため、町と自主防災との連絡会議のようなものを作っていたきたい。

《テーマ：町政全般》

○丹沢湖が決壊した場合、避難所が清水、スポーツ広場、ぐみの木、山北高校とほとんどが河川敷である。逃げる際に、自分の判断で山へ逃げるか川へ逃げるか決める必要がある。

○街灯のLED化の進み具合を教えてください。

○町の財政を長期ビジョンで見たときに、今後、少子高齢化になったときに避けられないのが、医療費と介護保険費の負担増である。その前に財政が破綻しないように、長いスパンで財政について借金をしていくようになるのか、それとも住民の税金を上げていくのか。